

HopStepJump 9

人権について考える②

～ 人権教育の推進と様々な人権課題について ～

<https://toyono-jinjikyoo.com/>

大阪人権博物館（リバティおおさか）展示見学・意見交流

第9回の初任者研修は、大阪人権博物館（リバティおおさか）を会場に、豊能町教育委員会教育支援課、宗像亮副主幹の進行のもと展示見学、意見交流を行いました。

大阪府人権博物館は、右記の目的により1985年（昭和60年）に開館しました。豊能地区初任者・新規採用者研修において、人権についての見識を深め、人権教育の推進をはじめ、日常の業務や授業に活かすことをねらいとして、この博物館を会場に研修を行っています。

「当たり前」「こうあるべき」という決めつけられた考えのために、生き方を狭められることなく、様々な文化や人々の生き方が尊重され、共に生きる社会をつくるため、教職員として何ができるかを深く考える研修となりました。

大阪人権博物館の目的

「自他を尊重し、豊かな人権感覚を育むための調査研究を行い、関係資料、文化財を収集、保存し、併せてこれらを展示公開することにより、人権意識の伸長と啓発及び人間性、社会性の養成に資することを目的とする」

～振り返りシートより～

大阪人権博物館を見学し、人権課題の多様性、課題の多さを改めて知ることができました。時代によって変わっていくその様相についても教職員として把握しておく義務を痛感させられました。人権尊重に対しての視点を現場の中で常に意識して、子どもたちと接していくことを心に留めておきたいと思えます。

人権感覚についていろいろな話を聞いて、身近にたくさんあふれていると感じました。自分自身が知らないこと、何気なく見過ごしていることがたくさんあり、はっとした研修でした。今回の自分のはっとしたことを子どもたちに返すためにも自分自身もしっかりと学ばなければいけないと感じました。

今回の研修では子どもたちとどんなふうにも人権学習を進めていけばよいかを考えることができました。特にジェンダーや家族の多様性に関しては、自分にとっては当たり前でない環境や状況でも、その人にとっては当たり前なんだという認識をしなければならぬと感じました。「普通、普通ではない」という基準は自分だけのものであって、ジェンダーや家庭環境の在り方は違って当たり前。「違う」ということにおかしいものは何もない。いろいろな人がいるんだという認識が大切だと考えました。

グループ内での話し合いで「差別は知らないから起こる」という意見が出て、その通りだなと思いました。私自身、今日、様々な展示を見て、自分の知らないこと、知っているつもりになっていることの多さに衝撃を受けました。今の自分に子どもたちへ伝えられることは少ないと痛感しました。子どもと共にもっともっと学び、自分を磨いていけたらと思えます。

講義では「教職員の意識が変われば子どもも変わる」という最後の言葉が胸にささりました。自分の子どもに対する接し方が適切だったのか、声かけや指導が子どもたちを安心させているものだったのかなど、とても考えさせられました。自分の意識を変えることは明日からでもできると思えます。少しずつでも子どもが安心できると感じるクラスにしたいと思えます。

いじめ、部落差別、障がい者差別など、「人権」とは幅広いものですが、これらの人権をよそ事、他人事とは思わず、自分事として取り組んで行くことが大切だと分かりました。教師が人権について真剣に考え、子どもと関わっていく姿は必ず子どもたちに伝わり、それが安心できる空間づくり、教室づくりにつながっていくことが分かったので、私も少しずつ勉強して、自分事として人権を考えていきたいと思えます。

日々の学校生活を送る中で、授業だけでなく私たちの言動は、常に問われ続けます。今回の研修を通して教職員としての自分の姿を見つめ直すことができたのではないのでしょうか。